

総長あいさつ

日頃より、北海道大学に対するご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

本学は、今から142年前の1876年に、北海道の開拓の任に当たる人材を育成するため、明治政府が欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して設立した「札幌農学校」を起源とし、東北帝国大学農科大学を経て、1918年に北海道帝国大学となりました。

札幌農学校は、明治初期に実学の重視を掲げて設立された他の大学とは異なり、アメリカのリベラルアーツ教育が行われ、農学だけでなく数学、化学、生物学から語学、歴史、経済学まで幅広く教養を培うための基礎教育が実施されていました。そこでは、人間形成の基となる「全人教育」のみならず、未踏の学問領域を積極的に探求する「フロンティア精神」、国際性や多様性への柔軟な感受性を育成する「国際性の涵養」、そして、物事の本質を見極め、それを社会に活かす実のある研究を進める「実学の重視」を念頭に置いた教育が実践されました。

開校以来、本学はこれら4つの基本理念である「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」及び「実学の重視」を受け継ぎ、今日に至る長い歴史を刻んでまいりました。この基本理念の一つである「国際性の涵養」に則り、2013年には、高い精神性と異文化理解、コミュニケーション能力を身につけたグローバル人材育成を支援するため、札幌農学校2期生で国際連盟事務次長を務めた新渡戸稲造の名を冠した「新渡戸カレッジ」を開校し、さらに、2015年からは大学院生向けのプログラムとして「新渡戸スクール」を開校し、世界の課題解決に貢献する北海道大学を目指して、精力的に活動してきております。

一方で、わが国の18歳以下人口の動態変化と基礎的財政収支の不均衡から、大学を取り巻く財政環境は益々厳しいものとなっております。2004年の法人化以降、国立大学に対する運営費交付金は、2017年度までに1,400億円以上が減額されており、本学においても、大学運営に必要な基幹的経費が毎年1～1.6%の減額となっております。このような状況の中、北海道大学がその果たすべき使命を全うすることを通じて世界的な課題を解決するために、大学病院収入や産学官連携等による自己収入の増収、教員・事務組織の効率化等の取組をより一層加速させるとともに、予算の効率的・効果的な執行に努め、財務基盤の強化を行ってまいります。

本学が持続的に発展し続けるためには、財務の健全性を確保すると同時にその透明性を高め、皆様への説明責任を果たすことが重要であることを踏まえ、例年のとおり「財務レポート 2018」を作成しました。「財務レポート」は、北海道大学が取り組んでいる事業を財務の側面から取りまとめたもので、本学を支えてくださる多くの皆様に、本学の財務状態や経営状態を分かりやすく解説し、広くご理解いただくことを目的としております。皆様には、当レポートの内容をご覧いただき、本学が展開する様々な事業へのご理解と一層のご支援・ご協力を賜れば幸いです。



北海道大学 総長 名和 豊春